

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年6月25日現在

機関番号：84301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16655

研究課題名(和文) 長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental Research on Nagao Uzan's Connoisseurship of Chinese Painting and Calligraphy

研究代表者

呉 孟晋 (KURE, MOTOYUKI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部列品管理室・主任研究員

研究者番号：50567922

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：京都在住の漢学者にして書家の長尾雨山(1864-1942)が残した詩文の草稿や書簡、書画作品などの一次資料の整理をとおして、大正から昭和にかけて数多くの中国書画が日本にもたらされた背景には近世的な漢学から近代的な中国学への知識体系の転換があったことを明らかにした。これらの資料には、雨山の中国書画の鑑定にかかわる箱書きや跋文の草稿が多数含まれており、目録化した項目数はおよそ5000件にのぼった。これまで断片的な紹介にとどまっていた、雨山の業績と思想を総合的に理解するための重要な基礎資料のひとつとなるであろう。

研究成果の概要(英文)：This research project focused on the organization and interpretation of a vast archive of reference materials from the personal collection of Sinologist and calligrapher Nagao Uzan (1864-1942), who lived in Kyoto during the modern period. This archive includes poetry and prose manuscripts, letters, paintings, and calligraphy, which collectively reveal the paradigm shift that took place in the connoisseurship of Chinese painting and calligraphy during Japan's Taisho and early Showa periods. The fundamental cataloging of this over 5000-item archive elucidates the full scope of Nagao's writings, activities, and thought, which altered traditional practices and led to the development of a modern style of connoisseurship.

研究分野：中国絵画史

キーワード：長尾雨山 日中文化史 中国書画 コレクション形成 題跋文学

### 1. 研究開始当初の背景

長尾雨山は、名を甲、通称・榎太郎といい、高松藩士の子として高松で生まれた。東京帝国大学文科大学卒業後、文部省専門学務局勤務を経て、熊本の第五高等学校、東京高等師範学校などで教鞭を執った。しかし、明治35年(1902)、教科書疑獄事件に巻き込まれ退職。翌36年(1903)から大正3年(1914)までは上海に居住し、商務印書館で編訳を主宰したことで、中国における近代出版事業にも関与するとともに、得意とする詩文で呉昌碩をはじめとする文人書画家たちと交流をもった。帰国後は京都に居を定め、羅振玉や王国維、鄭孝胥ら清朝の遺臣たちと交わる一方で、中国書画の研究や鑑定を積極的に行った。日本の中国学における「京都学派」を形成した内藤湖南たちとは異なり、在野の立場から既存の枠組みにとらわれない中国学の隆盛に貢献した。

雨山の著作には、唯一、子息の正和氏が雨山の講演原稿を編集した『中国書画話』(筑摩書房、1965年)がある。しかし、『何遠楼詩文集』(「何遠楼」は雨山の書齋名)、『古今詩変』、『儒学本論』、『楚辞講義』、『聖教序講義』など、本来出版予定だった雨山の本来の研究業績を示す著作原稿のほとんどは失われており、雨山の中国学およびその思想の全容を知ることは極めて困難な状況である。

雨山の業績については、おもに近代書道史、近代日中交流史研究の立場から杉村邦彦氏や松村茂樹氏が積極的に検証をおこなってきた。筆者が勤務する京都国立博物館には雨山旧蔵の中国書画コレクションがあることから、最近、雨山直系の子孫にあたる方たちから雨山が残した詩文の草稿や書簡、書画作品など資料の取り扱いについて相談があり、その数が膨大なものであること、そしてその多くが未発表のものであることがわかった。

### 2. 研究の目的

長尾雨山が残した直筆の書画作品や草稿、雨山宛ての書簡などの整理をとおして、近代日本での中国書画受容の様相をうかがう。具体的には、当時の書画鑑定として真筆であることを保証する、書画作品を収める箱蓋への揮毫(いわゆる「箱書き」)や作品末尾の題跋を作成するための下書きを抽出して、それらを分析することを目指す。ただし、本研究は調査対象とする資料群が膨大な量であるため、前提作業として資料群の目録化をすすめる、その公開を第一の目的とする。

### 3. 研究の方法

(1) 調査対象とする資料・書画作品を実見して、名付けを行い、その名称を目録として登録した。実際の作業には大学院生や博士課程修了者に協力を仰ぎ、エクセルデータを作

成した。このほか、重要な資料については写真撮影を行った。

(2) 調査第1年ではほぼ全体の分量を把握したことから、第2年以降は、一枚ごとに分散している詩文草稿の仮名称の訂正をすすめた。この作業では、西上実・京都国立博物館名誉館員の協力を得た。

### 4. 研究成果

(1) 調査対象とした資料は、科研報告書『長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究』にて「長尾雨山関係資料目録」として刊行した。項目数は4989で、その内訳は以下のとおりである。(A) 書画、(B) 器物、(C) 雅会関係(寿蘇会・赤壁会など)、(D) 書籍、(E) 草稿、(F) 書簡、(G) 写真、(参考) 長尾雨山旧蔵書画・考古資料(京都国立博物館蔵)、長尾雨山旧蔵書籍(京都国立博物館蔵)、なかでも、詩文草稿は約630点、書簡も約2700点を数える。

(2) 未発表と思われる詩文の創作原稿はもちろん、京都で開催した「蘭亭会」や「寿蘇会」、「赤壁会」といった文人雅会の関連資料や活動記録があった。書簡も数十人から2000通を超える量を有し、雨山の生涯にわたる活動を網羅するものであることがわかった。

(3) 詩文草稿については、雨山が明治36年(1903)から大正3年(1914)の約11年にわたる上海居住期をのぞく前後の期間、すなわち若年期と晩年期のものが充実していることがわかった。内容としては、「何遠楼底稿」「石隠室題跋」などと題された雨山創作の詩文や題跋の草稿ノートのほかに、記念碑の碑文や画集の序文、書画の箱書きなどさまざまな零葉が混ざる。中国書画鑑定にかかわるもののほかに、自作の詩文、著名人士の略伝なども数多く含まれている。高松藩の儒学者の家系にあることを自覚して、儒学を基盤とする漢学の修養が終生変わらず雨山の詩文に貫かれていることが確認できた。

(4) 書簡は昭和年間のものが多いが、たとえば中国書画の一大コレクターであった東洋紡社長の阿部房次郎(1868-1937)や南画家の柚木玉邨(1865-1943)ら頻りにやりとりする差出人だけでも30人にのぼり、一部に羅振玉(1866-1940)や陳師曾(1876-1923)ら中国文人からのものがある。ちなみに、雨山と交友の深かった呉昌碩(1844-1927)や鄭孝胥(1860-1938)の書簡のほとんどは、それぞれ「缶廬詩翰」「鄭孝胥寄雨山尺牘卷」としてすでに京都国立博物館の所蔵になっているが、今回、新出のものもある。

(5) 京都国立博物館では昭和60年(1985)度から長尾雨山コレクションの一部を受託

しており、その作品群のなかに今回整理の資料と関連する作品もあった。たとえば、「寿蘇会」関連資料について。大正年間に雨山は富岡鉄斎(1837-1924)たちと複数回、中国文人の代表格である北宋の蘇軾(1037-1101)の誕生日を祝う雅宴である「寿蘇会」を開催したが、そのときに配布されたと思われる蘇軾の肖像が、雨山所蔵の作品から複製されていたことがわかった。この作品は明末の人物画家、陳洪綬(1598-1652)の筆に仮託された伝称作品であるが、それでも蘇軾を尊ぶ雨山たちにとって貴重な図像であったことがうかがえる。

(6) 京都国立博物館が所蔵及び寄託を受ける中国書画について、随時、長尾雨山の箱書きのある作品を調査した。東京国立博物館、大和文華館や澄懷堂美術館など国内の美術館や、海外では台北故宮博物院で関連する中国絵画を調査した。その結果、京都国立博物館上野コレクションにある伝沈周筆柘榴図の箱書きの草稿が含まれていることがわかるなど、調査対象の資料的価値を確定するに至った。

(7) 今回調査の資料群は、大正から昭和初期にかけて不明な部分が多かった日本における中国文化を愛好する知識人の活動を解明する手がかりとして、重要な価値を有するといえる。ただし、今後の課題としては、中国書画受容との関連がうすいゆえに目録への収録を見送った草稿の一部や雨山が揮毫した書などについて、適宜、補遺のかたちで目録を補っていきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

(1) 呉孟晋「漢学と中国学のはざままで：長尾雨山と近代日本の中国書画コレクション」『第11回 SGRA チャイナ・フォーラム報告書』査読なし、渥美国際交流財団関口グローバル研究会主催、2018年秋刊行予定

(2) 呉孟晋「陳老蓮画蘇長公像」について：長尾雨山関係資料のなかから」『山本竟山の書と学問：湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク』展図録、査読なし、関西大学博物館・関西大学東西学術研究所、2018年(4月)、23-25頁

(3) 呉孟晋『長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究』(科研報告書)、査読なし、京都国立博物館、2018年、1-174頁

(4) 呉孟晋「幽篁枯木図 郭畀筆」関西中

国書画コレクション研究会編『関西九館所蔵中国書画録』査読なし、関西中国書画コレクション研究会、2018年、113-117頁

〔学会発表〕(計7件)

(1) 呉孟晋「長尾雨山と海上文人の交往」『使節・海商・僧侶：近世東亜文化意象伝衍過程的中介者国際学術研討会』2018年8月30-31日、台湾・中央研究院中国文哲研究所(発表予定)

(2) 呉孟晋「山本竟山と長尾雨山：雨山関係資料について」国際シンポジウム『山本竟山の書と学問』2018年4月28日、関西大学

(3) 呉孟晋「新出の長尾雨山関係資料について」明治美術学会第5回例会、2018年3月10日、西宮市大谷記念美術館

(4) 呉孟晋「近代京都と中国書画：長尾雨山関係資料からみえてくること」立命館土曜講座「臥以遊之：中国の芸術文化に親しむ」、2018年1月20日、立命館大学

(5) 呉孟晋「漢学と中国学のはざままで：長尾雨山と近代日本の中国書画コレクション」国際研究集会「第11回 SGRA チャイナ・フォーラム」(渥美国際交流財団関口グローバル研究会主催)(国際学会)、2017年11月25日、中国・北京師範大学

(6) Motoyuki Kure, The Modernity of Nagao Uzan's Connoisseurship, AAS in Asia (国際学会)、2016年6月25日、日本・同志社大学

(7) 呉孟晋「中国近現代絵画於日本の情況」『万象神采：二義草堂蔵近代中国書画』展專題講座(国際学会)、2015年5月9日、香港・香港中文大学文物館

〔図書〕(計2件)

(1) 板倉聖哲・実方葉子・野地耕一郎編『典雅と奇想：明末清初の中国名画』、呉孟晋(作品解説)、東京美術、2017年、総120頁

(2) 中国文化事典編集委員会編『中国文化事典』、呉孟晋(項目執筆)、丸善出版、2017年、総808頁

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

ホームページ等

なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

吳 孟晋 ( Motoyuki Kure )

国立文化財機構京都国立博物館学芸部列品

管理室・主任研究員

研究者番号：50567922